

決算説明資料

2024年3月期 第2四半期

株式会社ユビキタスAI
代表取締役社長 長谷川 聡
2023年11月14日

Index

- 第2四半期業績 概要
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第2 四半期業績 概要

セグメント別業績 概況

- ・ コロナ禍の影響が解消し、既存事業がロイヤルティ売上の回復等により売上高・営業損益ともに対前年同期比で大幅改善、ライトストーン社の子会社化に伴う事業セグメント追加により売上高が大幅増
 - 連結売上高：1,242百万円（対前年同期比：59.0%増）
 - 連結営業損失：73百万円（前年同期営業損失：172百万円）

事業セグメント	売上高 営業損益	概況（対前年同期比）
ソフトウェアプロダクト事業	283百万円 △26百万円	一部既存顧客製品の生産終了によりロイヤルティ売上が減少したが、コロナ禍の影響を受けた他顧客からのロイヤルティ売上が回復、契約時一時金売上、受託開発売上が新規案件獲得で増加したことにより、対前年同期比で売上増、営業損益改善
ソフトウェア ディストリビューション事業	514百万円 △40百万円	受託開発売上、既存顧客からのロイヤルティ売上が増加したことにより、対前年同期比で売上増、営業損益改善
ソフトウェアサービス事業	113百万円 △0百万円	受託開発売上の一部期ずれ等が発生するも、人件費・外注費の抑制等により、対前年同期比で売上微減、営業損益改善
データアナリティクス事業※	331百万円 △6百万円	教育機関の既存顧客を中心としたパッケージソフト販売が堅調に推移

株式会社グレースシステムの100%子会社化



9月7日 株式会社グレースシステムの全株式を取得、子会社化で合意 資本統合による顧客基盤と製品ラインアップならびに組込み開発力の強化を加速

■ 両社の経験と知見を生かし、拡大する顧客ニーズに対応

- 組込みシステムの開発ニーズがEVを起点とした自動車の電子化拡大、IoT機器の普及に伴う機器開発やセキュリティ対応などにより拡大している状況下、これまで以上に連携を深め、両社の経験と知見を生かすことでビジネス機会の増加を図る
- 将来の成長のため、共通した事業を統合、組込みエンジニアの採用・育成強化に協力して取組み、開発・顧客サポートのための体制強化を推進、また優秀な人材を活用した新たなビジネスも検討

名称	株式会社グレースシステム
設立	1991年7月24日
所在地	横浜市西区みなとみらい二丁目3番3号 クイーンズタワーB 19F
代表者	代表取締役社長 工藤 清隆
事業内容	・組込み向け自社製ソフトウェア製品の開発・販売および受託開発サービスの提供 ・組込み向け輸入ソフトウェアの販売・技術サポート ・印刷技術関連ソフトウェア製品の開発、販売
資本金	98,500千円
2023年3月期 業績	売上高：1,048,452千円 営業利益：31,340千円

株式会社グレースシステム子会社化に伴う業績への影響

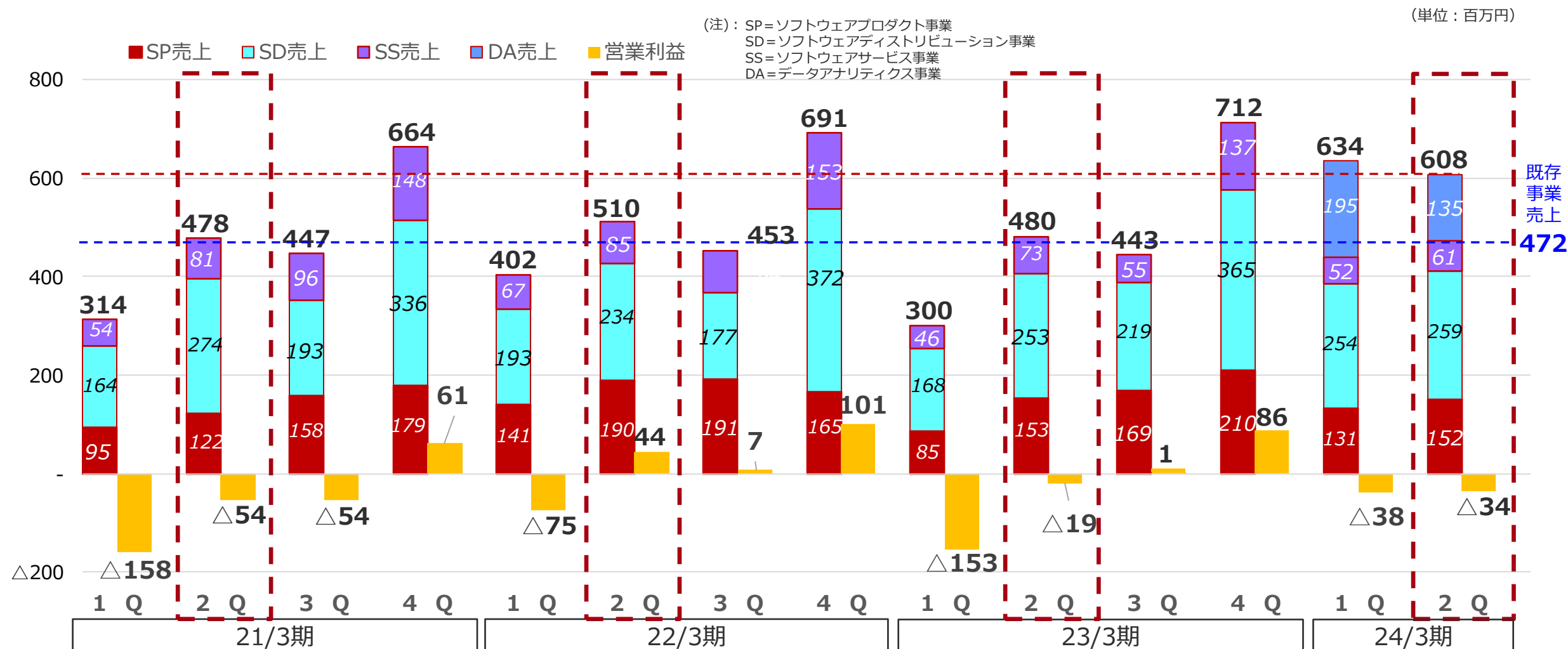
■ 2024年3月期の連結業績予想

- 2023年10月-2024年3月の半期分が当期業績に反映
- 詳細は後日開示予定

■ 現在の中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）

- グレースシステム社の2024年3月期計画（2023年4月-10月は実績値）をベースに反映
- 2024年3月期結果に基づき中期経営計画全体を見直し
- 詳細は後日開示予定

四半期別 売上高・営業損益の推移



対前年同期比:セグメント別売上及び利益

(単位:百万円)

		24/3期 2Q (連結)	23/3期 2Q (連結)	増減額	増減率 (%)
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	283	239	43	18.1
	セグメント利益	△26	△73	47	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	514	421	92	22.0
	セグメント利益	△40	△91	51	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	113	119	△6	△5.2
	セグメント利益	△0	△7	7	-
データアナリティクス事業	売上高	331	-	331	-
	セグメント利益	※ △6	-	△6	-
合計	売上高	1,242	781	461	59.0
	セグメント利益	※ △73	△172	99	-

(注) ※ 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 19百万円を含めております。

対前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

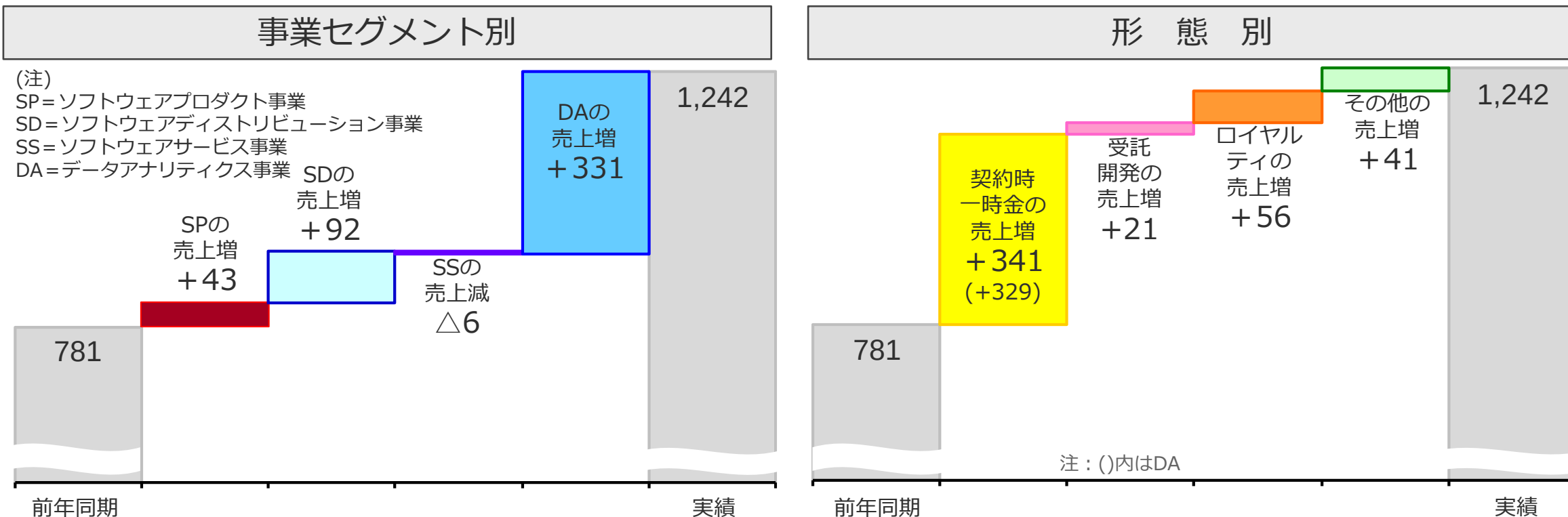
(単位:百万円)

		24/3期 2Q (連結)	23/3期 2Q (連結)	増減額	増減率 (%)
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	283	239	43	18.1
	セグメント利益	△26	△73	47	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	514	421	92	22.0
	セグメント利益	△40	△91	51	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	113	119	△6	△5.2
	セグメント利益	△0	△7	7	-
データアナリティクス事業	売上高	331	-	331	-
	セグメント利益	※ 13	-	13	-
合計	売上高	1,242	781	461	59.0
	セグメント利益	※ △53	△172	119	-

(注) ※ 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 19百万円を含めておりません。

対前年同期比：売上高（セグメント別及び形態別）

（単位：百万円）



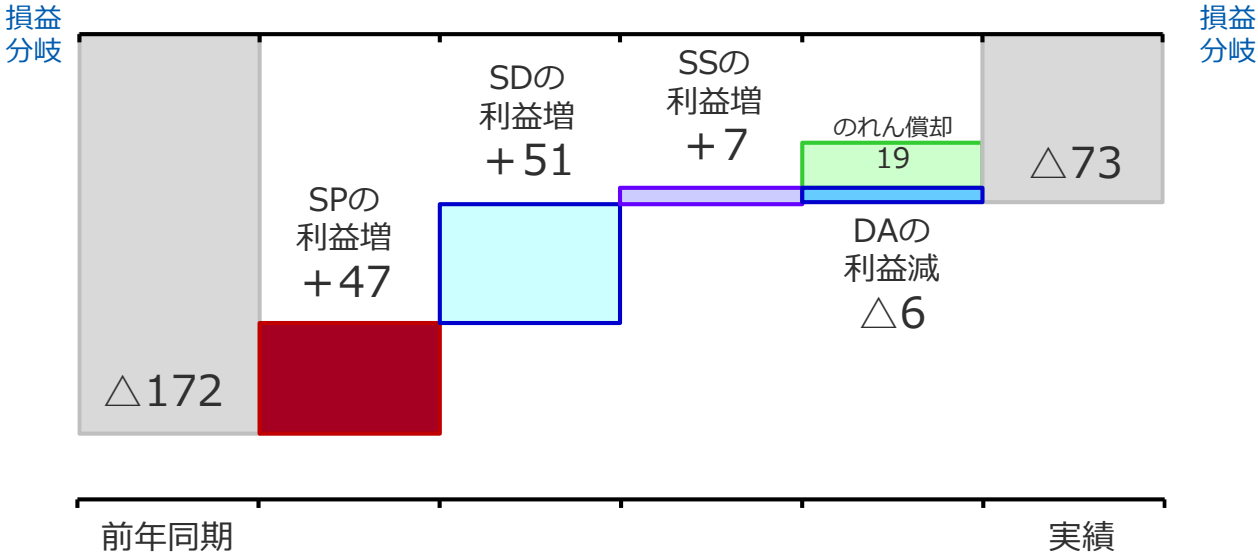
■ コロナ禍からのロイヤルティ売上の回復等、およびDA事業セグメントの追加により、前年同期を大幅に上回る

- ・ SP事業：一部既存顧客製品の生産終了によりロイヤルティ売上が減少したが、コロナ禍の影響を受けた他顧客からのロイヤルティ売上が回復、契約時一時金売上、受託開発売上が新規案件獲得で増加
- ・ SD事業：受託開発売上、既存顧客からのロイヤルティ売上が増加
- ・ SS事業：受託開発売上の一部期ずれ等により微減
- ・ DA事業：教育機関の既存顧客を中心としたパッケージソフト販売(契約時一時金)が堅調に推移

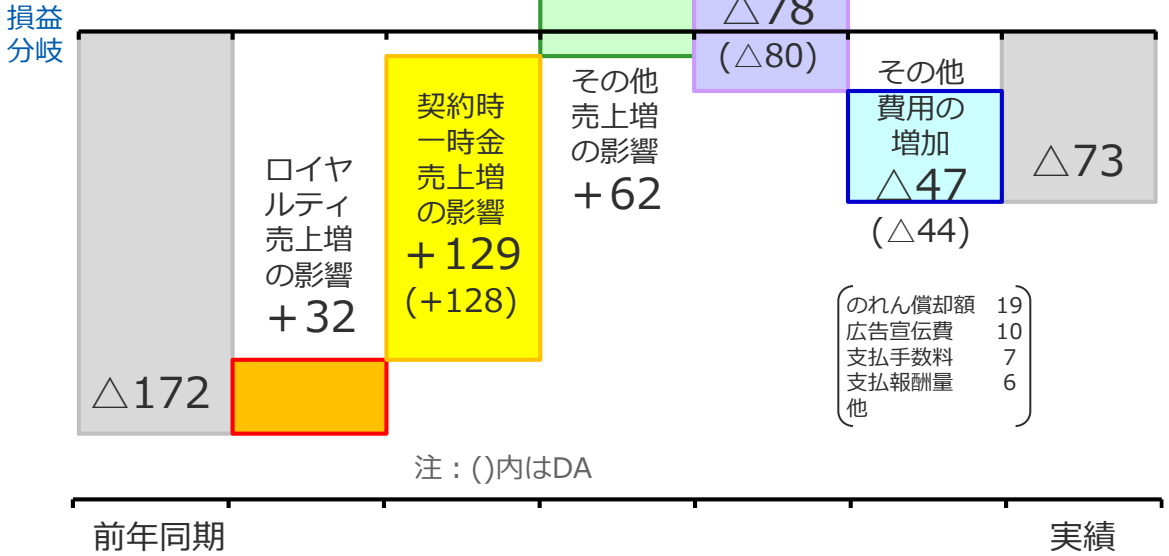
対前年同期比：営業利益（セグメント別及び費目要因別）

（単位：百万円）

事業セグメント別



費目要因別



■ 既存事業の売上増、およびDA事業セグメントの追加により、前年同期を大幅に上回る

- SP事業：一部既存顧客製品の生産終了によりロイヤルティ売上が減少したが、コロナ禍の影響を受けた他顧客からのロイヤルティ売上が回復、契約時一時金売上、受託開発売上が新規案件獲得で増加
- SD事業：複数の主力製品の売上増により増加
- SS事業：人件費・外注費の抑制等により微増
- DA事業：子会社化に伴い事業セグメント追加

連結損益計算書

(単位：百万円)

	24/3期 2Q	23/3期 2Q	増減
売上高	1,242	781	461
売上原価	709	494	214
売上総利益	533	286	246
販管費	606	459	146
営業利益	△73	△172	99
営業外損益	10	9	0
経常利益	△62	△163	100
特別損益	-	-	-
法人税等	△3	3	△7
四半期純利益 ※	△58	△166	107

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

連結貸借対照表（資産の部）

(単位：百万円)

	23/9月末	23/3月末	増減
現金・預金	1,302	1,114	187
受取手形・売掛金・契約資産	452	636	△183
有価証券	-	400	△400
棚卸資産	22	2	20
前払費用	59	56	3
その他流動資産	35	29	5
流動資産	1,872	2,239	△366
のれん	215	-	215
その他固定資産	650	581	69
固定資産	865	581	284
資産合計	2,738	2,821	△82

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

(単位：百万円)

	23/9月末	23/3月末	増減
買掛金	108	149	△40
未払金	92	70	21
契約負債	101	95	5
その他流動負債	85	66	19
流動負債	388	381	6
長期借入金	-	-	-
繰延税金負債	52	69	△16
その他固定負債	60	60	△0
固定負債	112	129	△16
資本金・資本剰余金	2,936	2,936	-
利益剰余金	△833	△774	△58
その他純資産	134	147	△12
純資産	2,238	2,309	△71
負債・純資産合計	2,738	2,821	△82

通期業績予想（連結）に対する進捗

(単位：百万円)

	通期 業績予想	第2四半期 実績	進捗率 (%)
売上高	2,912	1,242	42.7
営業利益	20	△73	—
経常利益	20	△62	—
純利益	5	△58	—

セグメント及び 製品分野別動向と取り組み

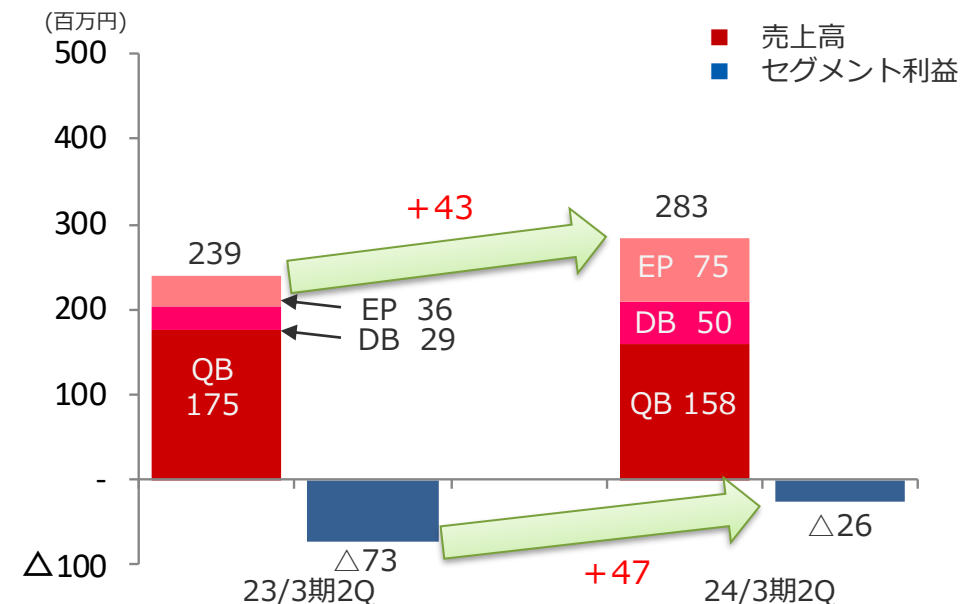
ソフトウェアプロダクト事業

■ 当期注力取り組み

- 高速起動製品における次世代プラットフォーム対応強化と海外展開による更なる事業成長
- IoT製品の脆弱性に対する懸念の高まりに応えるためのセキュリティ製品の販促・提案強化

■ 当四半期概況

- 一部既存顧客製品の生産終了によりロイヤルティ売上が減少したが、コロナ禍の影響を受けた他顧客からのロイヤルティ売上が回復、契約時一時金売上、受託開発売上が新規案件獲得で増加したことにより、対前年同期比で売上増、営業損益改善
- 製品別概況
 - 高速起動製品：国内外の車載機器関連および海外民生機器の既存顧客からのロイヤルティを中心に売上高158百万円（前年同期比△16百万円）、既存顧客の一部製品生産終了により、前年同期に比較してロイヤルティが減少
 - データベース製品：産業機器の既存顧客が製品生産の回復によりロイヤルティが増加、50百万円の売上計上（前年同期比+21百万円）
 - エンベデッドプラットフォーム製品：車載機器関連の既存顧客から、セキュリティ製品の契約時一時金および受託開発費用を中心に72百万円の売上計上（前年同期比+36百万円）



※QB: 高速起動製品
※DB: データベース製品
※EP: エンベデッドプラットフォーム製品

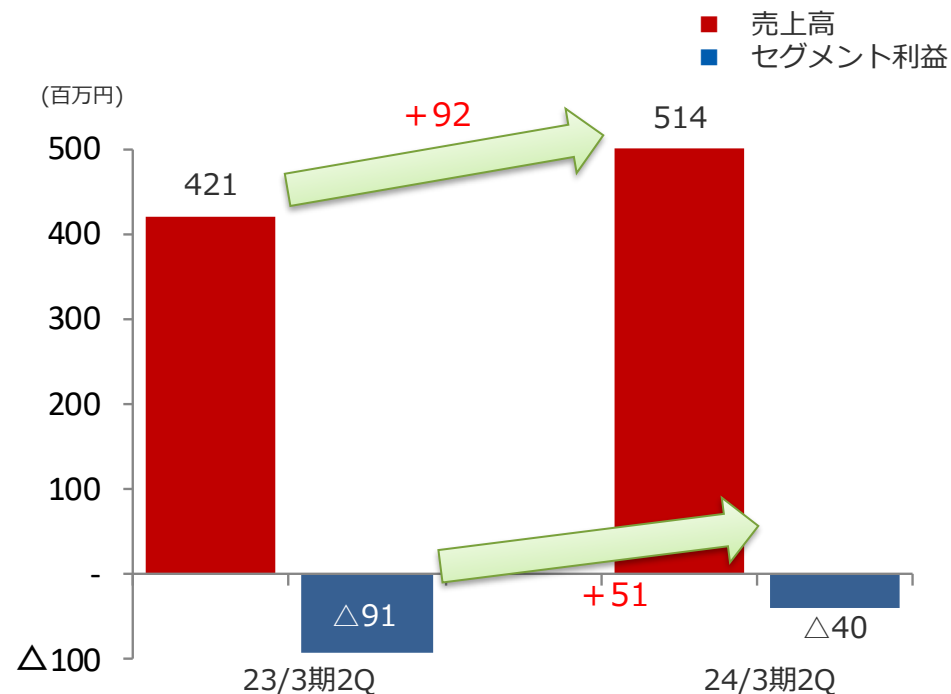
ソフトウェアディストリビューション事業

■当期注力取り組み

- 市場と顧客からの需要が高まっている、車載ECU開発、静的コード解析およびセキュリティ検証ツール・サービスの拡販
- 積極的な海外製新商品の獲得を推進し、販売機会と売上の増加を見込む

■当四半期概況

- ソフトウェア検証・品質向上ツール、ミドルウェア、ネットワークマネジメントなどの主力製品の既存顧客への販売が堅調だったことに加え、一部製品の受託開発案件が増加、円安に伴う売上額増なども寄与し、対前年同期比で売上増、営業損益改善



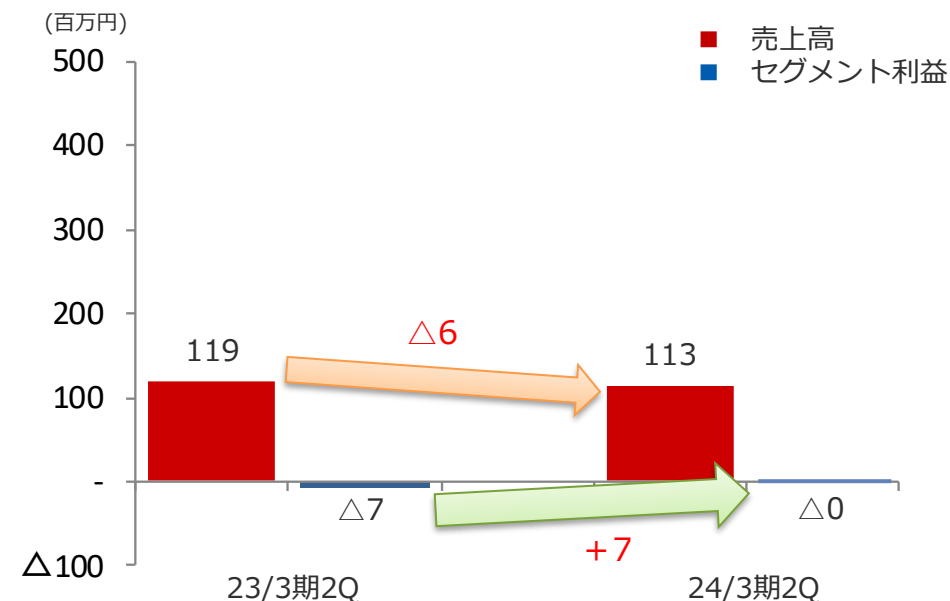
ソフトウェアサービス事業

■当期注力取り組み

- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的確保と、協業提案による新たな取り組み
- 車載機器のCD再生機能搭載率低下による「YOMI」ライセンスの減少を補うためのストーリーミングメディアなど新たな分野へのアプローチや受託開発案件の強化
- 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現

■当四半期概況

- 既存顧客からの各種受託開発売上を計上
- データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス使用料売上等を計上



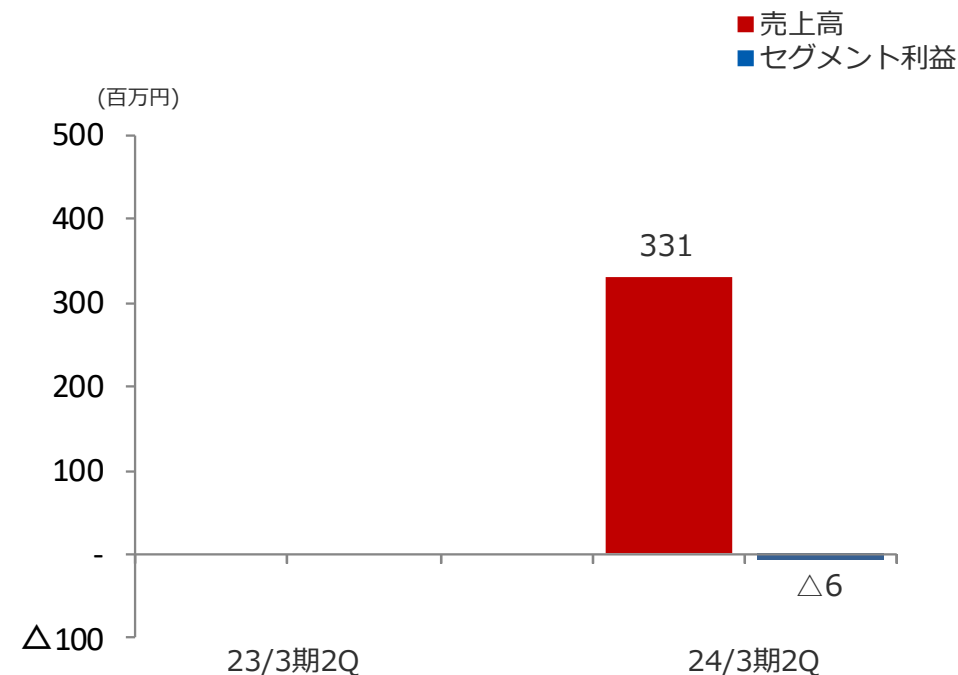
データアナリティクス事業

■ 当期注力取り組み

- 主力ソフトウェア製品（Origin、Stata）を中心とした教育機関、政府研究機関、企業の調査部門への販売
- デジタルマーケティングによるインバウンドセールス強化
- 既存顧客への販促強化による、サブスクリプション（年間使用料）、メンテナンスの更新率向上

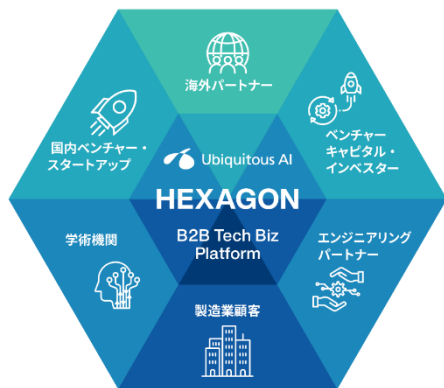
■ 当四半期概況

- 教育機関を中心にパッケージソフト売上を計上

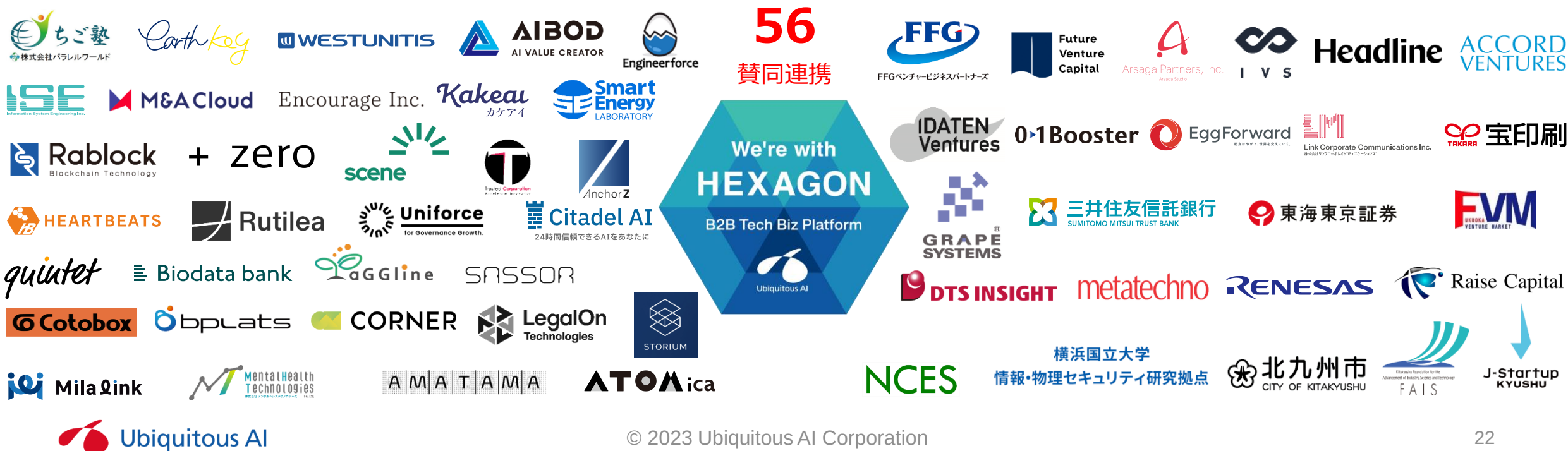


トピックス

HEXAGON Update - 取組状況



- 賛同企業・団体： **56** (2023/10/31現在、HEXAGON発表2022/6/22 ~ 16ヶ月、一部連携団体含む)
- ベンチャーキャピタル、スタートアップ支援企業からのご紹介によるスタートアップとの販売提携・事業連携が多数実現
- 賛同スタートアップの資金調達ニーズに応じたベンチャーキャピタルへの紹介を開始
- 弊社や他の賛同スタートアップの製品・サービス・技術を組み合わせたソリューション化検討を開始
- 大手企業とのモノ作りスタートアップ向け支援プログラムを開始
- B2Bテックスタートアップからの幅広い賛同が実現

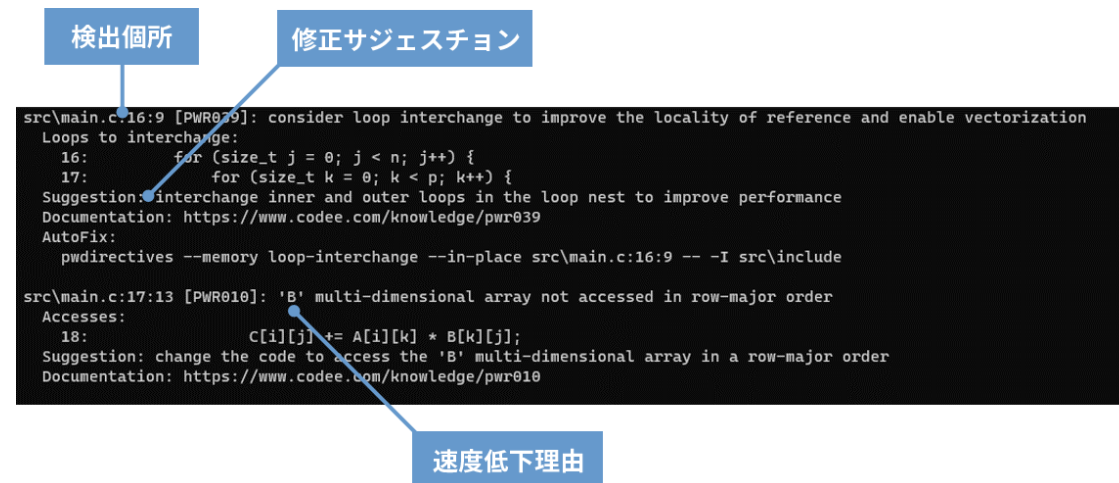


Appentra社と代理店契約を締結、アプリケーション実行速度高速化支援ツール「Codee」を提供開始（9/15）

プログラミングの専門知識や経験が十分でなくとも効率的かつ短時間でアプリケーションソフトウェアの高速化が可能

■静的解析でアプリケーションの実行速度を高速化

- Codeeを使用してソースコードを静的解析。開発者は、Codeeが特定した高速化可能な箇所を変更し、ビルドするだけでアプリケーションを高速化
- 最大で8倍の高速化が可能
- 大規模なコードも高速解析
（例：20万行を30秒で解析）
- 最適化されたソースコードへの変更は手動・自動のどちらでも可能



The screenshot shows the Codee static analysis tool's output in a terminal window. Two blue callout boxes with arrows point to specific parts of the output:

- 検出箇所 (Detection Location):** Points to the error message for PWR010: 'B' multi-dimensional array not accessed in row-major order.
- 修正サジェスション (Correction Suggestion):** Points to the suggestion text for PWR010: change the code to access the 'B' multi-dimensional array in a row-major order.

The terminal output includes the following text:

```
src\main.c:16:9 [PWR009]: consider loop interchange to improve the locality of reference and enable vectorization
Loops to interchange:
16:   for (size_t j = 0; j < n; j++) {
17:       for (size_t k = 0; k < p; k++) {
Suggestion: interchange inner and outer loops in the loop nest to improve performance
Documentation: https://www.codee.com/knowledge/pwr039
AutoFix:
pwdirectives --memory loop-interchange --in-place src\main.c:16:9 -- -I src\include

src\main.c:17:13 [PWR010]: 'B' multi-dimensional array not accessed in row-major order
Accesses:
18:         c[i][j] += A[i][k] * B[k][j];
Suggestion: change the code to access the 'B' multi-dimensional array in a row-major order
Documentation: https://www.codee.com/knowledge/pwr010
```

At the bottom right, there is a blue box labeled **速度低下理由 (Reason for Speed Reduction)** with an arrow pointing to the PWR010 error message.

Appendix

2024年3月期 第2四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第2四半期	7月14日	■ B2B Tech Biz Platform「HEXAGON」新たに賛同企業2社のサービスの取り扱いを開始
	7月31日	■ B2B Tech Biz Platform「HEXAGON」に 新たに1つの企業・団体が賛同 「HEXAGON」への賛同企業・団体は、計49企業・団体に
	8月15日	■ B2B Tech Biz Platform「HEXAGON」新たに賛同企業1社のサービスの取り扱いを開始
	9月7日	■ グレープシステムの全株式を取得、子会社化で合意 資本統合による顧客基盤と製品ラインアップならびに組込み開発力の強化を加速
	9月15日	■ Appentra社と代理店契約を締結 アプリケーション実行速度高速化支援ツール「Codee」を9月15日提供開始
第3四半期 (参考)	10月13日	■ スマートホーム規格「Matter」と「ECHONET Lite」とのブリッジ機能を提供開始



Ubiquitous AI